

**平成26年度  
桐生市教育委員会事業  
点検評価報告書**

平成27年12月  
桐生市教育委員会

## 目 次

### I はじめに

1 趣旨	1
2 点検評価の方法	1
3 教育委員会の活動状況	1

### II 第三者評価委員による意見

○ 基本理念・基本方針	7
○ 重点施策に対する点検評価	
1 生涯学習の推進	9
2 学校教育の充実	11
3 社会教育の推進	31
4 青少年の健全育成	40
5 スポーツの振興	45
6 文化財の保護活用	49
○ 総括	58

# I はじめに

## 1 趣旨

桐生市教育委員会は、毎年、「教育行政方針」を定め、その中で、基本理念を「高い知性、豊かな情操、優れた創造力を持ち、郷土を愛し、国際的視野のある、心身ともに健康で人間性豊かな市民の育成を目指します。また、自らを律し、思いやりがあり、自然や環境を大切にする人づくりを進め、学校、家庭、地域社会相互の連携と協力を促し、生涯学習社会づくりに努めます。」と定め、各施策・事業の推進に取り組んでいる。

こうした取組みを進めるに当たっては、その進捗状況を市民の皆さまにお示ししながら、各施策・事業が着実・効果的に実施されているかなどを点検・評価していくことが必要だと考えている。

そこで、各施策・事業に関する点検評価報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することにより、市民に開かれた、市民から信頼される教育行政を推進してまいりたい。

## 2 点検評価の方法

「教育行政方針」の中の「重点施策」に基づいた教育施策の事項について、平成26年度の管理及び執行状況の点検評価を教育委員会が自ら行い、点検評価の実施に当たっては、教育に関し学識経験を有する群馬大学大学院理工学府 松原雅昭教授に第三者評価委員としての意見をお聞きした。

## 3 教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員

	H26. 4. 1～ H26. 9. 30	H26. 10. 1～ H27. 3. 31
職 名	氏 名	氏 名
委員長	前原 勝	塚越 紀隆
委員長職務代理者	塚越 紀隆	大澤美智子
委 員	大澤美智子	前原 勝
委 員	柴崎 隆夫	柴崎 隆夫
教育長	高橋 清晴	高橋 清晴

(2) 教育委員会会議

教育委員会会議は、毎月開催される定例会や臨時的に開催される臨時会などがある。

会議では、桐生市教育委員会の方針や施策などについて話し合いが行われ、教育委員の合議により、その決定がなされている。

- ・ 定例会            1 2 回
- ・ 臨時会            6 回

【会議実績一覧】 ※議案40件、報告1件、その他1件

月 日	区分	番 号	議 案
4 月 15 日	定例会	報告第 1 号	臨時代理（桐生市学校給食共同調理場の設置及び運営に関する条例施行規則を一部改正する規則）の承認を求めるについて
		議案第 15 号	桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区保存計画の変更について
5 月 13 日	定例会	議案第 16 号	桐生球場ナイター照明設置工事の計画について
		議案第 17 号	桐生市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員の委嘱について
		議案第 18 号	平成 26 年度一般会計教育費補正予算(第 2 号)の申出について
6 月 24 日	定例会	議案第 19 号	桐生市社会教育委員の委嘱について
		議案第 20 号	桐生市公民館運営審議会委員の委嘱について
		議案第 21 号	桐生市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
		議案第 22 号	桐生市立図書館協議会委員の委嘱について
		議案第 23 号	桐生市青少年センター運営協議会委員の委嘱について
		議案第 24 号	桐生市立青年の家運営委員会委員の委嘱について
7 月 15 日	定例会	議案第 25 号	桐生市学校給食共同調理場運営協議会委員の委嘱について
		議案第 26 号	桐生市立小学校、中学校及び特別支援学校管理規則

			の一部を改正する規則案
8月19日	定例会	議案第27号	平成25年度桐生市一般会計教育費及び学校給食共同調理場事業特別会計歳入歳出決算の認定の申出について
		議案第28号	平成27年度使用教科用図書採択について
	臨時会	議案第29号	桐生市教育委員会職員の人事について
9月8日	臨時会	議案第30号	東京高等裁判所平成26年(ネ)第2414号損害賠償請求控訴事件の和解について
		議案第31号	平成26年度桐生市一般会計教育費補正予算(第5号)の申出について
9月22日	定例会	議案第32号	桐生市文化財調査委員の委嘱について
		議案第33号	平成26年度末県費負担教職員及び市費負担教職員人事方針案
	臨時会		桐生市教育委員会委員長の選挙について
10月29日	定例会		議案・報告なし
11月17日	定例会	議案第34号	桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区保存計画の変更について
		議案第35号	平成26年度桐生市一般会計教育費補正予算(第6号)及び学校給食共同調理場事業特別会計補正予算(第1号)の申出について
		議案第36号	桐生市教育委員会教育長の給与に関する条例の一部を改正する条例案
11月28日	臨時会	議案第37号	桐生市教育委員会職員の人事について
12月9日	定例会		議案・報告なし
1月21日	定例会		議案・報告なし
2月2日	定例会	議案第1号	桐生市教育委員会教育長の給与に関する条例を廃止する条例案
		議案第2号	桐生市教育委員会教育長の勤務時間、休暇等及び職務に専念する義務の特例に関する条例案
		議案第3号	桐生市体育施設の設置及び管理に関する条例の一部

			を改正する条例案
		議案第4号	桐生境野球場の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例案
		議案第5号	平成26年度桐生市一般会計教育費補正予算(第8号)の申出について
		議案第6号	平成27年度桐生市一般会計教育費及び学校給食共同調理場事業特別会計予算の申出について
2月18日	臨時会	議案第7号	桐生市子どものための教育・保育の利用者負担額等に関する条例案
		議案第8号	桐生市立小・中・特別支援学校長、副校長、教頭の任免に関する内申及び桐生市立幼稚園長の任免について
3月20日	臨時会	議案第9号	桐生市教育委員会事務局人事について
3月26日	定例会	議案第10号	桐生市教育委員会公告式規則等の一部を改正する規則案
		議案第11号	桐生市立学校施設使用条例施行規則等の一部を改正する規則案
		議案第12号	桐生市体育施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則案
		議案第13号	桐生市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則案
		議案第14号	桐生市立幼稚園就園奨励に関わる保育料減免に関する規則を廃止する規則案
		議案第15号	桐生市教育委員会教育長の事務処理の特例に関する規程の一部を改正する訓令案
		議案第16号	平成27年度教育行政方針案
		議案第17号	県費負担教職員の人事について

### (3) その他の活動

教育委員は、教育委員会会議のほか、群馬県市町村教育委員会連絡協議会主催の事業、各種学校行事等にも参加している。

#### ○教育懇談会の実施

市長と教育委員会の意思疎通の円滑化を図り、教育行政の推進と市政の発展に寄与することを目的に教育懇談会を実施した。

【日時】平成 27 年 3 月 26 日

【場所】特別会議室

【内容】「平成 27 年度市政方針における教育施策について」をテーマに、本市教育行政の課題や提案、また教育委員会各委員の今後の抱負などを市長へ伝え、自由討議を行った。

#### 【平成 26 年度教育委員各種参加行事一覧】

月	日	行事名
4 月	25 日	桐生法人会青年部会定時総会・会員交歓会
5 月	9 日	桐生市立公立学校幼稚園管理職合同歓送迎会
	13 日	第 1 回東毛第一地区教科用図書採択協議会
	14 日	桐生市 P T A 連絡協議会懇親会
	16 日	関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会
	20 日	群馬県市町村教育委員会連絡協議会代議員会
	22 日	桐生市婦人団体連絡協議会懇親会
	26 日	桐生市国際交流協会総会
	27 日	第 61 回桐生市教育委員会表彰式・定期総会・記念講演会
	29 日	桐生市公立幼稚園 P T A 連絡協議会総会・歓送迎会
6 月	18 日	桐生市・みどり市学校保健会総会・新旧役員懇親会
	25 日	桐生みどり地区学校警察連絡協議会総会
7 月	17 日	第 2 回東毛第一地区教科用図書採択協議会
8 月	23 日	第 10 回桐生市マーチングフェスティバル
10 月	12 日	第 16 回桐生市父母の日大会
	23 日	桐生市戦没者追悼式

月	日	行事名
11月	13日	群馬県市町村教育委員会連絡協議会理事会・代議員会・全体研修会
	15日	第28回桐生市「明るい家庭地域づくり運動」推進市民大会
	25～26	市町村教育委員会研究協議会
12月	4日	第67回桐生市文化祭運営委員会
1月	1日	ニューイヤー駅伝第59回全日本実業団対抗駅伝競走大会歓迎行事
	11日	第67回桐生市成人式
	22日	第61回「文化財防火デー」に伴う防火訓練
	28日	桐生市青少年育成補導連絡協議会新年交歓会
2月	19日	桐生市・みどり市学校保健会研究協議会・懇親会
3月	2日	商業高校卒業式
	10日	奨学資金奨学生選考委員会
	13日	中学校卒業式
	20日	特別支援学校卒業式
	24日	小学校卒業式
	26日	教育懇談会

# 基本理念

桐生市教育委員会は、高い知性、豊かな情操、優れた創造力を持ち、郷土を愛し、国際的視野のある、心身ともに健康で人間性豊かな市民の育成を目指します。

また、自らを律し、思いやりがあり、自然や環境を大切に  
する人づくりを進めるとともに、学校、家庭、地域社会相互の  
連携と協力を促進し、生涯学習社会づくりに努めます。

# 基本方針

---

桐生市教育委員会は、「桐生を好きな子供」を育てることを重点に、基本理念の具体的実現を目指し、次の基本方針に沿って諸施策の展開を図ります。

---

## 【生涯学習の推進】

- 生涯学習推進組織を支援し、市民主体の生涯学習を推進します。
- 学習活動情報の収集及び提供を行うとともに、生涯学習の普及・啓発に努めます。
- 市民の学習活動を一層支援するため、行政による学びの仕組みを構築します。

## 【学校教育の充実】

- 学校経営の改善・充実に努めます。
  - ・ 特色ある学校づくりの推進
  - ・ 地域の信頼にこたえる学校づくりの推進
- 基礎学力の定着を図るとともに、それを基にした「生きる力」の育成に努めます。
  - ・ 「確かな学力」の確実な習得
  - ・ 「豊かな心」の育成
- 発達段階に応じた体力の向上と学校保健・給食指導の充実に努め、心身ともに健康な  
幼児・児童生徒の育成に努めます。
- 新たな学校教育の在り方の研究に努めます。

## **[社会教育の推進]**

- 社会の変化に伴い、市民の多様なニーズに応えるために、公民館、図書館等の社会教育施設を中心として、自主的、主体的に「いつでも、だれでも、どこでも」学べるように生涯各期における学習機会と情報の提供に努め、学習活動への支援を図ります。
- 社会教育関係団体や各種サークル等の育成並びに指導者及び学習ボランティアの養成と確保を図り、市民の自主的な学習活動を支援します。
- 市民文化の活性化や芸術・文化活動の推進を図る各種事業を行うとともに、展示施設を充実し、市民文化団体の育成を図ります。
- 優れた美術・音楽等の鑑賞の機会を設け、子供の情操教育やまちの文化水準の向上を図るため、各種の支援を行います。
- 地域で子供を育てる環境づくりのため、子供を対象とした事業の充実や地域・家庭・学校の連携に努めます。

## **[青少年の健全育成]**

- 青少年教育活動の諸施策を充実させて、青少年の自立と社会参画を促進し、郷土の良さを再認識させる心豊かな青少年の育成に努めます。
- 学校、家庭、地域、さらに関係機関、団体との連携を深め、青少年の健全育成・安全確保・非行防止活動を市民総ぐるみの運動として展開します。
- 野外活動の充実を図り、次代を担う心豊かでたくましい青少年の育成や青少年団体活動の振興に努めます。

## **[スポーツの振興]**

- 「健康で 明るい 豊かな生活」を基本目標として、すべての市民が健康で充実した余暇を過ごせるよう、気軽にスポーツに親しむ機会を提供するとともに、あらゆるスポーツ施設の体系的な環境整備を行います。
- 公益財団法人桐生市スポーツ文化事業団と連携しながら、各種スポーツ団体や指導者の育成に努め、市民のスポーツ活動の振興を図ります。

## **[文化財の保護活用]**

- 「文化財を残すためには、文化財を活用すること」を基本理念として、貴重な文化財の保護活用に努めます。
- 文化財の保護活用のため、文化財の周知と保護意識の高揚を図ります。
- 近代化遺産の有効活用を進めます。
- 文化財の保護活用を進める市民団体の活動を支援します。

### **【第三者評価委員による意見】**

昨年度も記しましたが、昨今のグローバル化の流れに鑑み、「情報発信能力の育成」を早急に教育目標のひとつに加えて欲しいと思います。

# 重点施策に対する点検評価

## 1 生涯学習の推進

### 目標

- (1) 「生涯学習桐生市民の会」とともに「自分さがし 出会いさがし ふるさと夢さがし」をキャッチフレーズに、生涯学習の推進方策の研究及び生涯学習推進委員等による公民館活動の推進

### 成果

- ・生涯学習桐生市民の会と連携を図りながら、自らを高め、お互いに学びあいながら人づくり、街づくりを目指し、市民が主役の運営を心掛け、学校教育や社会教育との連携により公民館を中心とした多様な活動を展開してきた。
- ・生涯学習桐生市民の会では、有隣館での「生涯学習市民フェスティバル」の実施、市民文化会館での「文化会館と遊ぼう」、総合福祉センターでの「ふれ愛フェスティバル」事業にも積極的に参加し、生涯学習活動を活発に展開し成果を得ている。
- ・また、生涯学習桐生市民の会の目的別委員会では、地域の歴史・文化を学ぶ活動や子どもたちの体験学習を通して、市民が桐生の素晴らしさを再発見し、学ぶ機会を得ることができた。

### 課題

- ・市民のニーズを把握し、学習環境整備の充実や活動内容の質を高め、誰もが学びたい時に学ぶことができる生涯学習社会づくりに努めていくこと。

### 目標

- (2) 生涯学習活動情報の収集及び提供、生涯学習関連事業の支援、普及・啓発活動の実施

### 成果

- ・市民の学習機会の充実や、市政に対する理解を深めていただくため、ホームページを見直して、講座や生涯学習の情報を分かりやすく市民に周知した。また、「生涯学習桐生市民の会」の一つである生涯学習なんでも相談所では、生涯学習情報に関するアンケートを実施し、結果を公民館等に情報提供した。生涯学習を広く啓発することを目的に、賛同する団体や人々により4月から1年間をかけて、「春の陣」「夏の陣」「秋の陣」「冬の陣」と四季それぞれの特色を活かした生涯学習活動を展開し、成果を得た。

### 課題

- ・生涯学習桐生市民の会と連携し、高齢化社会に向かって多様化するニーズを把握すると共に、一人でも多くの方に受講、参加していただけるよう情報提供し、市民の学びやすい環境づくりをしながら、活動内容の質を高め、普及、啓発活動に努めていくこと。

### 目標

(3) 全庁的に取り組んでいる「生き生き市役所出前講座」の一層の充実と円滑な運営

### 成果

・平成26年度は83講座があり、212件の実施で受講者8,885人であった。多くのグループ、団体から広く利用され、出前講座の成果及び、市政に関する理解が深まってきていると思われる。また、平成21年度からみどり市との連携交流事業をスタート。市民への周知、ホームページの相互リンクを行っている。

### 課題

・メニュー83講座中、37講座のみの利用で、偏りがあるため、市民ニーズを把握し見直しを図りながら一層の充実と円滑な運営に努めていくこと。また、みどり市との連携交流事業充実に努めていくこと。

### 目標

(4) 家庭・学校・地域等との連携を深め、「桐生を好きな子供」を育てるための事業の実施

### 成果

・各幼稚園・小・中・特別支援学校・教育委員会及び市長部局等で実施された「桐生を好きな子供」を育てる事業は、教育関係事業（教育委員会156事業、学校340事業、幼稚園65事業）、市長部局160事業が実施され、総事業数は721事業であった。全体では「ふれあい体験事業」と「イベント開催事業」とで全体の94.2%を占めており、「桐生を好きな子供」の育成について成果が得られた。

### 課題

・今後も「桐生を好きな子供」を育てる事業の事前PRや実施後の周知方法等を、「桐生を好きな子供」を育てる推進委員会で検討していくこと。

### 【第三者評価委員による意見】

「生き生き市役所出前講座」につきましては参加者にアンケート調査等を行って、市民ニーズの把握に努めて戴きたいです。

## 2 学校教育の充実

### 桐生市立幼稚園

#### 目標

- (1) 園経営の改善・充実
  - a 特色ある園づくりの推進
  - b 地域の信頼にこたえる園づくりの推進

#### 成果

- ・ 幼児の発達段階を考慮しながら地域人材、資源を活用した教育活動の工夫がみられた。
- ・ 若手職員や男性職員の任用によって、より幅広い教育活動を実践することができた。

#### 課題

- ・ 一人ひとりの園児へきめ細かな保育ができるよう、介助員や教育活動支援員の活用など、指導体制の一層の充実を図っていくこと。
- ・ 本市の基本方針でもある「桐生を好きな子供」の育成を目指して、市有施設の活用の検討など桐生のよさを感じることができる行事や教育活動をさらに研究すること。

#### 目標

- (2) 幼児期にふさわしい生活の展開と、学びの芽生えを重視した「生きる力」の基礎の育成
  - a 「豊かな遊び」の充実
  - b 「豊かな心」と「健康な体」の育成

#### 成果

- ・ 園内研修等の成果を生かし、興味を持ったことを探求する、多様な運動をする等、幼児が発達に必要な経験を得るための保育の展開の工夫がみられた。
- ・ 地域の環境（自然・施設・人材）、小学校との交流、異年齢交流を保育に取り入れ、生活体験の広がりをもつ教育活動、桐生のよさに触れさせる教育活動が実践された。

#### 課題

- ・ 幼児の遊びにかかわり「学びの芽生え」を捉えることができるよう、今後も教職員の一層の資質向上に努めること。
- ・ 多様な動きが経験できる発達段階に即した遊具や用具の整備を図ること。
- ・ 幼稚園での取組で育まれた幼児の心の成長を家庭でも育成できるよう、家庭への情報提供等の子育て支援を一層推進すること。

<p><b>目標</b></p> <p>(3) 特別支援教育の支援体制の整備と指導の充実</p> <p>a 障害のある幼児及び保護者への相談・支援体制の一層の充実</p>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回相談による対象児に対する適切な関わり方の指導・助言とつばさクラブによる適切な就学指導を行うことができた。</li> <li>・特別な支援が必要な幼児に対して、適切な支援を行えるよう保護者を巻き込んだ対応ができつつある。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援が必要な幼児と保護者に対して、他機関との連携を含めて専門的な教育相談・支援ができる体制の充実を図っていくこと。</li> </ul>

<p><b>目標</b></p> <p>(4) 幼小の連携の推進</p> <p>a 各園・学校の実態に即した質の高い幼小の交流の促進</p>
<p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプローチカリキュラムが各園で作成され、一層就学を意識した指導が実施されるようになった。</li> <li>・幼保小連携推進地区別会議における情報交換は自園の指導内容を振り返る機会となり、指導改善に向け職員の意識を高めることができた。</li> <li>・子どもたちの交流だけでなく、保育や授業の相互参観など教職員の交流も取り込まれるようになった。</li> </ul>
<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプローチカリキュラムについて、園の実態と小学校からの情報収集に応じて内容を修正し、継続して指導に生かしていくこと。</li> <li>・小学校からの情報を受けて園の指導を改善することと、幼児教育の段階で育った学びの芽を小学校に伝え、つなぐことができるよう、教職員の資質向上を図ること。</li> </ul>

<p><b>目標</b></p> <p>(5) 教育設備の充実</p> <p>a 遊具整備工事の実施</p>
<p><b>成果</b></p> <p>a 西幼稚園の遊具整備工事を実施した。</p>

## 課題

- a 平成27年度、境野幼稚園を実施。その後、毎年計画的に整備工事を実施すること。

## 【第三者評価委員による意見】

幼小の連携や異年齢交流によって幼児の就学意識の向上が図られることや、幼少の教職員の交流が活発化することを期待します。

## 桐生市立小学校／中学校／特別支援学校

### 目標

- (1) 学校経営の改善・充実
  - a 特色ある学校づくりの推進
  - b 地域の信頼にこたえる学校づくりの推進

### 成果

- ・各校では、校長のリーダーシップのもと、保護者や地域から信頼される学校を目指し、学校の経営方針、重点施策等を明確にするとともに、学校課題の解決に向け教職員が協力して教育活動に積極的に取り組んだ。
- ・地域の教育力を生かし、特色ある教育活動がどの学校においても行った。
- ・各学校とも教務主任を中心に教育課程の量的管理が適切に行われるとともに、管理職等による授業指導を通して質的な管理も図れた。

### 課題

- ・学校評価や学校評議員制度を積極的に活用し、地域・保護者へ開かれた学校経営を充実させていくこと。

### 目標

- (2) 「確かな学力」の確実な習得
  - 重点とする学力
    - 基礎的・基本的な知識・技能
    - 思考力・判断力・表現力
    - 学習意欲
  - a 授業改善
  - b 日常指導の充実
  - c 学習基盤の確立
  - d 家庭学習の推進
  - e 指導と評価の一体化

## 成果

- ・各学校で、児童生徒の実態を的確に把握し、少人数指導やチーム・ティーチングによる個に応じたきめ細かな指導や児童生徒の主体的な学習を通して「基礎・基本」の確実な習得を目指した取組を行った。
- ・学校教育推進委員や教科指導員の協力により作成された「授業改善プラン」をもとに各教科において具体的な取組を行った。

## 課題

- ・学力検査など、児童・生徒の実態を客観的に評価する手立てを充実させ、新学習指導要領にもとづく教育課程の実施を適切に進め、児童・生徒の学力向上に繋げること。
- ・学力向上について、教育活動全体を通じた総合的な指導や家庭との連携の在り方等について見直していくこと。

## 目標

### (3) 「豊かな心」の育成

- a 本市の豊かな自然や優れた文化・芸術など地域の特色を生かした本物に触れる体験活動の推進
- b 校長のリーダーシップのもと、道徳教育推進教師の役割の明確化と道徳教育の全体計画の充実
- c 道徳的価値の自覚を深めるための道徳の時間の確保と指導の充実
- d 児童生徒の自主的な活動(児童会活動・生徒会活動等)の充実によるいじめ防止活動の推進
- e 郷土愛・環境保全・生命尊重・規範意識等を育むための体験活動や集団活動の充実

## 成果

- ・「私たちの道徳」や「ぐんまの道徳」の効果的な活用について検討し、各学校において別葉を含む全体計画の見直しや整備を進めている。これにより道徳の時間の充実と教育活動全体を通しての道徳教育の推進をさらに図った。
- ・地域の特色を生かした体験活動や集団活動を通して、児童生徒が協力し合ったり高め合ったりしながら、望ましい人間関係を築くことができた。
- ・児童生徒主体によるいじめ防止活動を展開することにより、いじめを許さない気持ちや態度が育まれつつある。また、桐生市いじめ防止子ども会議にて「桐生市の児童生徒が考えたネットいじめを許さないためのツールやマナー」を具体的に8つ定め各校で共有した。

## 課題

- ・地域教材の開発や地域の自然・施設等を活用した体験学習、家庭・地域との連携や体験活動を生かした行事等をさらに精選しながら、教育課程上の位置づけを明確にしていくこと。
- ・道徳教育推進教師の役割を明確にして道徳教育の一層の推進を図るとともに、教科化に向けて教師の意識を高めていくこと。
- ・いじめ防止活動が形骸化することが無いよう、学校間や中学校区間の情報交換を行い、実効性のあるいじめ防止活動とすること。

## 目標

### (4) 生徒指導及び教育相談の充実

- a 生徒指導体制の確立及び関係諸機関との連携
- b 教育相談体制の確立及び教育相談員等との連携による個に応じた教育相談の充実  
(相談窓口の周知・相談環境の充実)

## 成果

- a 生徒指導主事・主任会議における各校の生徒指導の取組について情報交換を通して、全校一致の指導体制による組織的な対応の必要性が確認できた。また、桐生警察署や児童相談所の担当と情報交換、個別ケース検討会議等を行い、連携を図ることができた。
- b 市の相談体制や関係機関との連携についてまとめた資料を作成し、全幼稚園、小・中学校及び高等学校に配布した。また、市の相談窓口紹介のためのカードを作成し、市内の全児童生徒に配布した。  
市内全小・中学校に国費・県費のスクールカウンセラーを配置するとともに、市費の教育相談員、県費の生徒指導担当嘱託員を配置し、教育相談体制の充実を図った。また、教育相談員等会議において、年2回東部教育事務所のスーパーバイザー・スクーラーシャルワーカーを招いて研修会を行い、教育相談員、生徒指導担当嘱託員の資質向上を図ることができた。

## 課題

- a
  - ・各校において共通理解のもと、組織的に生徒指導を行う体制を強化させること。
  - ・関係機関との連携を一層深める方策を確立していくこと。
  - ・教育活動全体を通して、「自己決定力」「共感的人間関係」「自己存在感」を育む学級づくりをより一層充実させること。
- b
  - ・相談窓口のさらなる周知と相談対応を充実させること。
  - ・不登校対策及びいじめの予防・早期発見・対応のため教育相談員、生徒指導担当嘱託員の教育相談技術の向上を図ること。

## 目標

### (5) 健康の増進と体力の向上

- a 発達段階を踏まえて指導内容を明確化した教科体育の工夫・改善
- b 武道の必修化に伴う単元計画の構想と安全指導の徹底
- c 運動意欲を喚起し、運動習慣の確立を図るための体育的諸活動の充実と環境整備
- d 健康の増進のための実践力の育成を目指した系統性のある保健指導及び保健学習の充実

## 成果

- ・教科体育においては、「はばたく群馬の指導プラン（県）」、桐生市授業推進プランを踏まえた授業の工夫・改善を推進した。
- ・新体力テスト及び全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施による児童生徒の体力・運動能力及び、運動習慣等について実態を把握することができた。また、前年度の全国体力・運動能力、運動

週間等調査や新体力テスト等の結果を踏まえた各校の体力向上推進プラン計画書による児童生徒の体力向上に向けた実践を図った。

- ・「柔道の指導体制に関する状況調査（文科省）」「柔道授業の実施状況調査（県教委）」等により柔道の指導体制の確認、柔道授業が安全かつ円滑な実施の確認を行った。市内全中学校において、適切な指導体制で安全かつ円滑に授業を実施した。
- ・運動部活動においては、専門的な技術指導等のサポートによる部活動の充実や地域人材の活用をねらいとして、6中学校に9名の外部指導者を派遣した。
- ・小学校体育研究会による水泳記録会、陸上記録会により、のべ1,000名を超える5・6年生が参加し、県大会でも多くの入賞者を輩出した。中学校保健体育研究会では、「投げる力を高める体づくり運動」の公開授業及び授業研究会及び「授業改善推進プランについての各校での取組」について協議等により研究を深めた。
- ・保健学習における飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育において、市内全小学校・全中学校で外部講師を招いての薬物乱用防止教室を開催した。また、性に関する指導において、助産師等の外部講師を招いた講演会を6小学校、5中学校で開催した。
- ・健康増進のための実践力の育成を目指した健康教育については、教育活動全体を通して系統的・計画的に保健指導、保健学習を実践した。

#### 課題

- ・児童生徒の健全な心身と豊かな人間性の育成を図るために、各事業での実践について検討を行い、改善・充実を図ること。
- ・教科体育、体育的諸活動の充実と環境整備、保健指導及び保健学習について各校の取組の共有化を図ること。

#### 目標

(6) 各教科・領域等にわたる教育活動の充実

- |           |            |             |              |
|-----------|------------|-------------|--------------|
| a 安全教育の徹底 | b 外国語教育の充実 | c 地域理解教育の推進 |              |
| d 防災教育の充実 | e 人権教育の推進  | f 食育の推進     | g 情報モラル教育の推進 |
| h 健康教育の推進 | i 福祉教育の推進  | j 環境教育の推進   | k キャリア教育の推進  |
| l 読書活動の充実 |            |             |              |

#### 成果

- ・各校で児童生徒の実態に応じた重点的な指導を展開し、各々の教育活動の充実を図ることができた。
- ・外国語教育の推進においては、研修会を行ったり、英語指導員による巡回指導を実施するなど、小中における英語力の向上に向けた取組を充実させることができた。
- ・織物を制作する体験や絹襷記念館を訪問するなど、地域をより深く知る活動を充実させたことで、理解を深めることができた。

#### 課題

- ・小学校の外国語教育については、指定校を定めるなどして、教科化に向けた研究・準備を進めるこ

と。

- ・携帯電話・SNSの普及にともない、情報モラル教育を充実させること。
- ・安全教育に加え防災教育について、充実を図っていくこと。

## 目標

### (7) 特別支援教育の充実

- 市全体による特別支援教育体制の充実
- 介助員及び教育活動支援員を活用した校内の指導支援体制の充実
- 保護者と関係機関との連携をいかした個別の教育支援計画の策定
- 特別支援学校のセンター的機能の充実と活用
- 交流及び共同学習の推進

## 成果

- ・本人や保護者の願いを踏まえ、長期的な視点に立った「個別の教育支援計画」を策定する学校が増えた。

## 課題

- ・保護者や関係機関と早期からの一貫した支援に生かすことができるよう、「きりっこサポートファイル」等を活用した実用的な「個別の教育支援計画」にしていくこと。
- ・関係機関と理解の共通化を図ることができるような、情報共有のシステム整備を具体化していくこと。

## 目標

### (8) 指定校等の推進

- 社会福祉協力校  
「新里中央小学校」（平成24～26年度）
- 愛鳥モデル校  
「北小学校」（平成24～28年度）

## 成果

- ・それぞれの研究指定校で保護者や地域と連携した取組が行われ、ねらいにせまることができた。

## 課題

- ・各指定校の研究成果を市内全小中学校に還元できるよう方策を検討すること。

## 目標

(9) 教育施設・設備の適正な管理・活用

- a 境野小学校、梅田南小学校、新里中央小学校の各所改修工事
- b 8小学校の洋便器化改修工事
- c 小中学校教育用教具（教育用コンピュータ）整備事業
- d 小中特別支援学校校務支援システムの構築

**成果**

- a 境野小学校、梅田南小学校、新里中央小学校で老朽化した施設の各所改修工事を実施した。
- b 8小学校の洋便器化改修工事を実施した。
- c 年次計画に基づき教育用コンピュータ（境野小学校、相生中学校）の更新を行った。
- d 公務の効率化を図るため全中学校及び特別支援学校に校務支援システムを導入した。

**課題**

- a 今後は計画的に老朽化した施設の改修を行っていくこと。
- b 洋便器化が終了したため洗浄装置設置工事を未設置の9小学校に実施すること。
- c 教育用コンピュータは年次計画に基づき更新を進めていくこと。

**目標**

(10) 新たな学校教育の在り方の研究

- a 小中連携の一層の推進

**成果**

- ・小学校と中学校の9年間を通して指導を一貫させる小中一貫校の実現にむけて研究を行うことで、施設一体型、施設分離型の2つのケースについて、それぞれの課題等を分析した。
- ・中1ギャップによる不登校や問題行動の減少につなげるため、教科担任制を実施する小学校が増加してきた。

**課題**

<施設一体型の場合>

- ・費用が膨大であることと、設置場所を選定すること。

<施設分離型の場合>

- ・子どもや地域の実態に即した指導内容や方針を決める時間と労力を確保すること。
- ・校区によって指導内容や方針に違いがでてくるため、児童生徒の転校や教職員の異動が発生した場合の対応を考えていくこと。

**【第三者評価委員による意見】**

道徳教育の整備、生徒の体力向上に関する取り組み、特別支援教育の個別支援や小中学校での施設、設備が充実しつつあることは望ましいです。

## 桐生市立商業高等学校（全日制課程）

### 目標

#### (1) 教科指導の充実・専門性の育成

- a 授業の充実・改善を通じての基礎・基本の定着と自ら学ぶ意欲の高揚など、確かな学力向上を目指した教科指導の実践
- b 広い視野から経済社会の発展に貢献できる職業人の育成
- c 情報機器などの有効活用による教育の推進
- d 高度な資格取得を実現する専門知識や技能の定着

### 成果

- ・少人数指導、ティーム・ティーチング、協働的な学習（学び合い学習）等の授業の充実や生徒の実態に応じた指導の工夫などの授業改善を通して、基礎学力の定着を図ることができ生徒の学習に対する達成感や満足度が高くなった。
- ・全商各種検定1級3種目以上合格者数は159名（平成26年度卒業生、全国13位）であった。
- ・日商簿記検定や情報処理技術者試験、実用英語技能試験等、高度な資格取得も成果を挙げ、進路実現に結びつけることができた。

### 課題

- ・学習内容の理解度にクラス間格差が見られる科目もあり、教員相互の一層の情報交換等を行うこと。また、生徒の興味関心を喚起する体験的学習や活動の工夫を行うこと。
- ・授業を受ける前の予習や授業後の復習などの学習習慣の徹底を図ること。

### 目標

#### (2) 生徒指導の徹底

- a 愛校心と郷土愛に根ざした心身ともに健全な生徒の育成
- b 基本的な生活習慣確立のための指導の充実と授業における生徒指導の徹底
- c 「3ない運動（免許を取らない、乗らない、買わない）」及び「マナーアップ運動」の推進など交通安全教育の徹底
- d 個に応じた教育相談の充実

### 成果

- ・運動部、文化部の関東大会や全国大会等における活躍や各種検定合格をともに喜び合い、一致団結することができた。県総合体育大会や関東大会並びに全国大会の壮行会時に校歌斉唱をするなど愛校心を育むことができた。また、部活動による地域行事への積極的な参加により郷土愛を育てることができた。
- ・日常の指導に加え、登校時指導で「挨拶の励行」「頭髪等の身だしなみ」「制服の着こなし」「言葉遣い」等、基本的な生活習慣を確立することができた。

- ・日常の指導に加え、マナーアップ運動・交通安全教室・自転車点検等を通して交通モラルやマナーの改善が図れた。また、「3ない運動」の趣旨の徹底も図れた。
- ・教育相談週間を4月・9月・1月の年3回実施した。また、年度当初に行った2者面談で、生徒の悩みや相談事の情報把握ができた。職員間でも情報の共有ができた。
- ・スクールカウンセラーの配置により、生徒の悩みや相談に丁寧な対応ができるようになった。

### 課題

- ・愛校心に含まれる校歌斉唱の音が非常に小さいため、一人一人の生徒が自信を持って大きな声で歌えること。
- ・生徒指導の徹底にあたって、学校と家庭との連絡を一層密にし、保護者や地域の方々に協力を仰ぎ、継続して指導していくこと。

### 目標

#### (3) キャリア教育の充実

- インターンシップの機会等を活用した将来の「在り方・生き方」に基づく望ましい勤労観・職業観の育成
- ガイダンス機能の充実とともに主体的な進路選択及び進路実現のための系統的な進路指導の実践
- キャリア教育を目的とした海外研修（希望者）の実施

### 成果

- ・インターンシップを通してビジネスマナーなど社会人として求められる力を身につけ、働く意義について学習できた。
- ・進路ガイダンスでは、各種専門学校・大学による学校説明や模擬授業を行った。また、1年生は大学見学・企業見学を通して進路選択について考える機会を得た。
- ・地元企業や市役所の協力を得て、インターンシップや模擬面接を実施した。
- ・海外研修は、日本と台湾の関係や歴史、日本の良さ、現地で働く日本人の職業観、コミュニケーションの重要性を学ぶよい機会となった。

### 課題

- ・低学年から職業・職種について学習させ、また大学等についての知識を深めさせることで、よりよい進路選択に導けるよう、より多くの機会を設定すること。また、自主的な進路学習が継続的に行われるよう工夫すること。
- ・海外研修事業が一過性ではなく、より充実させ継続的に進めること。

### 目標

#### (4) 部活動の活発化

- 運動部及び文化部における主体的・積極的な取組への支援

b 異学年をとおしたコミュニケーション能力と人間関係形成能力の育成

**成果**

- ・全員がいずれかの部活動に所属し、学校の活性化に寄与した。
- ・運動部・文化部とも全国レベルでの活躍をする部活動が複数あり、上級生から下級生へ良き伝統が受け継がれている。

**課題**

- ・部活動だけでなく学習にもしっかりと取り組む姿勢を作るため、試験前は部活動単位で学習することが定着してきた。今後は、さらに普段の授業や行事等においても、その活力を活かしていただけるよう取り組みを進めること。

**目標**

(5) 特別活動の充実

- a 個人や集団として望ましい学校生活を築き上げるための自主的・実践的な態度の育成
- b 生徒会活動の活性化

**成果**

- ・生徒会や専門委員会等を中心に生徒が主体的に活動することができた。
- ・LHRでは、各学年の実態に合わせた内容で計画的に指導を行った。

**課題**

- ・委員会活動の一層の活性化を図ること。
- ・生徒がより自主的に活躍できるよう、行事やLHRの計画を立てること。

**目標**

(6) 国際理解教育・情報教育の推進

- a 自国や郷土の文化・歴史と諸外国に対する正しい理解を深め、国際社会に対応できる教育の推進
- b 進展するICT社会に対応した情報教育の推進

**成果**

- ・外国語教育では、ALTの協力により英語スピーチコンテストに参加した。
- ・台湾への海外研修事業（希望者19名参加）を実施することができた。
- ・生徒にとって身近であるSNS等における情報発信について、外部講師による「情報モラル講習会」など情報モラルの指導が行われた。また、検定では、ITパスポート資格取得に好成績を得た。

## 課題

- ・グローバル化が進む中で、企業における海外での事業展開は今後ますます重要度を増す分野であり、商業高校として、現地を訪れる体験は貴重である。そういった機会を今後も継続すること。
- ・情報化社会にあって、情報を適切に扱える人材の育成にさらに努力すること。

## 目標

### (7) 地域に開かれた学校づくり

- a 地域行事への積極的な参加により、生徒が部活動などで身に付けた専門的知識や技能を地域へ還元
- b 学校説明会、オープンスクール、保護者参加事業、学校のホームページ等による学校の教育活動の理解の推進
- c 学校の人的、物的資源と併せ地域の有識者などの教育力活用によるビジネス教育の充実

## 成果

- ・吹奏楽部やダンス部は、地域行事に参加し、地域の方々に演奏やダンスを披露した。
- ・家庭部は、桐商uppカルチャー教室でクリスマスケーキ作り等を行い、市民の方が参加した。
- ・ビジネス研究部は、桐生市内の観光資源に着目した「わくわく体感ツアー」を行い、地域おこしに尽力した。
- ・学校説明会、オープンスクール、保護者参加事業等により学校の教育活動の理解の推進が図れた。

## 課題

- ・ホームページによる情報発信を一層充実すること。
- ・商業高校の特色を生かした地域との連携のあり方を検討すること。

## 目標

### (8) 人権教育の定着

- a 教育活動全体を通じての基本的な人権を尊重する精神、態度の育成
- b 「いじめ」など、人権侵害につながる行動の未然防止

## 成果

- ・人権に関するビデオを視聴することによって、人権について新たに意識させることができた。
- ・SNSなどのネット上のトラブルを防止するため、より良い人間関係を構築するためのコミュニケーションスキルを学ぶことができた。

## 課題

- ・社会環境の変化に伴い、インターネットに係わる人権問題の発生が増加しているため、継続して指導すること。

<b>目標</b> (9) 施設・設備の充実 a 屋上防水改修工事
<b>成果</b> a 屋上防水改修工事を実施した。
<b>課題</b> a 今後、防火シャッター改修工事（防火区画の整備）及び図書館ガス空調入れ替え工事をするこ と。

<b>【第三者評価委員による意見】</b> 教育面では学び合い学習、スクールカウンセリングや台湾への海外研修事業等および情報発信面では「わくわく体感ツアー」等で生徒指導の充実が図られていると思います。
---

**桐生市立商業高等学校（定時制課程）**

<b>目標</b> (1) 学習指導の充実・専門性の育成 a 授業改善を通じて基礎・基本の定着と個に応じたきめ細かな指導の実践 b 学習習慣の定着と資格取得を実現する専門知識や技能の充実
<b>成果</b> ・平成26年度学校評価アンケートにおいて、「わかりやすい興味のある授業」「社会で役立つ知識や技術が身につくような授業」が行われていると回答した生徒がともに75%以上であった。 ・同アンケートにおいて、「定期テストや検定試験の前に成績向上や試験合格のための学習をしている」と回答した生徒は65%以上であった。
<b>課題</b> ・引き続き、群馬県高校生ステップアップサポート事業をふまえた生徒目線での授業改善を図るとともに、生徒の学習習慣を定着させること。

## 目標

### (2) 生徒指導及び教育相談の充実

- a 基本的な生活習慣確立のための指導の充実
- b 「3ない運動」及び「マナーアップ運動」の趣旨理解及び交通安全教育の徹底
- c 養護教諭と連携した個に応じた教育相談の充実

## 成果

- ・全生徒を全職員で指導するという共通理解のもとで、基本的な生活習慣の確立や命を守る教育（交通安全教室、非行防止教室、防災教室、薬物乱用防止教室等）の徹底に向けた指導を継続させることができた。
- ・スクールカウンセラーを迎え、情報の共有と生徒へのフィードバックが一層充実してきた。

## 課題

- ・実社会に出てからもそのまま通用する態度や言葉遣い等を引き続き指導していくこと。

## 目標

### (3) キャリア教育の推進

- a 就労経験を生かした段階的なキャリア教育の推進と進路目標を実現するための基礎学力の養成
- b ハローワークや全日制進路指導部との連携

## 成果

- ・平成26年度学校評価アンケートにおいて、学校が生徒の「適性や希望などを生かした計画的な進路指導を行っている」と回答した生徒が70%以上であった。
- ・校内進路ガイダンスを4回実施し、生徒の進路意識の高揚を図ることができた。

## 課題

- ・進路に関する相談をしやすい雰囲気づくりに努めていくこと。
- ・卒業生を招き、高校時代に行っておくべき事柄についてアドバイスをいただく企画を検討すること。

## 目標

### (4) 特別活動の充実

- a 学校行事等をとおして、異学年や他校生徒との交流の充実とコミュニケーション能力の育成
- b 「心のふれあい」をとおして、調和のとれた人格の形成

## 成果

- ・平成26年度学校評価アンケートにおいて「総合的な学習の時間（ふれあいの時間）を積極的に取り

組んでいる」と回答した生徒が85%以上であった。

- ・学校行事、部活動を通して、他学年、他校生との交流を図ることができた。

#### 課題

- ・「ふれあいの時間」や学校行事の際に、生徒一人一人の適性をふまえた活動の場を引き続き確保すること。

#### 目標

(5) 地域に根ざした学校づくり

- a 「働きながら学ぶ」ための人的・物的教育環境の整備

#### 成果

- ・生徒全体の約70%が働きながら学んでおり、仕事と学業を両立させるよう努めた。

#### 課題

- ・「働きながら学ぶ」ために必要な教育環境を生徒目線で整備していくこと。

#### 目標

(6) 施設・設備の充実

- a 屋上防水改修工事

#### 成果

- a 屋上防水改修工事を実施した。

#### 課題

- a 今後、防火シャッター改修工事（防火区画の整備）及び図書館ガス空調入れ替え工事をするこ  
と。

#### 【第三者評価委員による意見】

命を守る教育において交通安全教室、非行防止教室、防災教室、薬物乱用防止教室等項目毎に教室を設けていることは望ましいです。

**目標**

- (1) 現職教育の充実
- a 調査研究員、教育相談研究員による本市教育課題の解決を目指した研究の充実
  - b 教職員の資質向上を目指した研修の充実

**成果**

- ・本市の教育上の課題の解決を目指した研究研修の実現が図れた。研究の成果については研究報告集としてまとめ、各園、各校、関係機関に送付するとともに、次年度、研究報告会を実施する。
- ・各研修会の実施により、教職員の資質向上を図ることができた。市民、教職員への公開講座として開催した「いじめに関する講演会（43名参加）」、「不登校に関する講演会（41名参加）」を含め、14講座、728名が参加した。
- ・研究成果をホームページで閲覧できるようにすることで、研究成果の還元、教職員への情報提供に努めた。

**課題**

- ・現場の抱える教育課題の解決に結びつく研修や教職員の資質向上を図る研修会を一層充実すること。
- ・課題研究員や教育相談研究員の人選、研修会への参加率を上げること。

**目標**

- (2) 学校教育相談事業の充実
- a 電話相談、来所相談、園・学校訪問等による教育相談業務（不登校、いじめ問題等への対応）の充実
  - b 全教職員の教育相談技術初級資格取得の推進（第9年次）による児童生徒理解の充実

**成果**

- ・保護者・教職員・カウンセラーの来所相談（延べ179件）、電話相談（延べ31件）、園・学校への訪問相談（延べ38件）に対応し、悩みや不安などの相談に応じた。
- ・教職員としての必要な教育相談の知識技能に関する実践的研修を通して、児童生徒理解や指導力の向上を図った。なお、教育相談研修講座受講者33名が県の教育相談技術認定初級を、1名が上級を取得した。

**課題**

- ・きめ細かに相談に応じるための相談体制の充実とともに、教育相談員の資質を向上すること。
- ・教育相談技術認定初級の取得を推進し、児童生徒理解に基づいた指導の充実を図ること。また、教育相談における指導的な教諭を育成すること。

## 目標

### (3) 適応指導教室の充実

- a 家庭、学校、関係機関等との連携による学校復帰を目指した指導援助の充実
- b 一人一方針に基づく児童生徒個々の課題に応じた指導援助の充実

## 成果

- ・学校への月例報告や訪問による情報提供、担任者会議等における協議、保護者との定期的な面談を通して、児童生徒の理解や支援について共通理解のもとに運営を進めた。通室児童生徒22名。学校復帰は4名。中学校3年生9名は7名が進学、2名が就職をした。
- ・関係機関との連携により、指導員の研修会を計画し、資質向上を図ることができた。

## 課題

- ・学校復帰に向けた支援のあり方については継続的な課題であり、特に、学校復帰や社会的な自立に向けて、個別の見通しに応じた手立てを明確にした支援ができるよう指導員の資質向上と適応指導教室の体制をつくること。

## 目標

### (4) 教育資料室の充実と活用の拡大

- a 地域教育関係資料の収集・整理・保管・提供と学校への資料管理支援
- b 教育資料の公開及び活用の充実

## 成果

- ・数種類の貴重な資料について、デジタルの記録メディアを用いて整理・保管ができた。
- ・現物資料の貸し出しや展示、総合的な学習の時間等への支援を通して、教育資料室の活用を図ることができた。

## 課題

- ・収集した資料を整理・保管し、展示するための場所を確保するとともに、教育資料展を開催し、収蔵資料の活用を推進すること。また、資料室や収蔵資料の活用を啓発し、利用回数を高めること。

## 【第三者評価委員による意見】

研究成果をホームページで閲覧できるようにすることで、研究成果の還元、教職員への情報提供に努められたことは大きな進展です。

## 目標

- (1) 学校給食の充実
- a 食の多様化に対応した新たな給食メニューの研究・開発
  - b アレルギー対応食の研究と実施

## 成果

- ・前年度に続き「日本の味めぐり」として郷土料理を献立に取り入れ、全国各地の食文化について理解を深める取組みを実施した。
- ・多様な食品を使った献立の実施に努めた。
- ・食文化、郷土食の承継、家庭の食事で不足しがちな栄養の補充等に配慮した新たな給食メニューを開発し実施した。

新メニュー：群馬野菜のナムル、昆布漬け、ジャガイモのバター煮、石狩汁、豆腐チゲ、サケのゆず風味焼き、オーシャンサラダ、たれかつ、揚げパン、せんべい汁、湯葉入り味噌汁、鱈の薬味ソース、京風味噌汁、すき焼き風煮

- ・地場産物を多く取り入れた献立を実施し給食時間の放送や給食だより等でPRを行い、児童・生徒が、地場産物への理解や、身近にいる農業従事者に対する感謝の気持ちを持てるよう努めた。
- ・食物アレルギーの児童生徒に配慮した献立の作成及び食材選び、情報提供に努めた。
- ・桐生市版の「学校における食物アレルギー対応マニュアル」案を作成し、次年度運用に向けた準備を行った。

## 課題

- ・すべての児童生徒の嗜好を満足させる献立作成はむずかしいが、どんな献立でもおいしく食べられるよう調理工程においても創意工夫するとともに、自発的に食べてもらえるよう、食の指導の充実を図ること。
- ・児童生徒が日常又は将来の食生活の指標となるような献立を作成すること。
- ・個々の児童生徒の状況に応じた対応が求められるアレルギー対応に関しては、現状の施設の設備及び職員体制では限界があるが、学校や保護者からの個別相談への対応について可能な限り状況に応えられるよう対応していくこと。
- ・桐生市版の「学校における食物アレルギー対応マニュアル」の運用のため、保護者を視野に入れた周知を行うこと。

## 目標

- (2) 桐生市食育推進計画に基づいた食育の推進
- a 栄養指導・学校訪問の積極的実施による、幼児、児童生徒、保護者に対する、食に関する指導の推進
  - b 幼児、児童生徒、保護者の施設見学の積極的受入れによる、給食に対する理解と正しい栄養知識の指導を推進
  - c 子供料理教室などによる食べ物への興味、関心を深める体験活動の推進

#### d 学校給食用食材における地場産物の使用の推進

##### 成果

- ・栄養教諭、学校栄養職員による給食時教室訪問を市内小学2・4・6年と中学全学年を対象に実施した。なお、26年度は中央共同調理場が、県の「食育推進に関する実践協力調理場」に指定されたことから、小学校5年生も給食時訪問を実施した。
- ・学校、家庭と連携し、児童生徒が生涯にわたり健康で生き生きとした生活を送ることが出来るよう、給食だよりや市ホームページ、学校給食モニター事業等を通じ、保護者や一般市民も想定した食育の推進に努めた。

##### 課題

- ・食育推進には、学校、家庭、地域との連携が不可欠であり、引き続き連携をとっていくこと。
- ・食育推進計画にある数値目標を（地場産食材の使用割合増加、給食残量の減少）達成すること。

##### 目標

###### (3) 衛生管理の徹底

- a 安全、安心な食材の選定
- b 衛生管理の徹底

##### 成果

- ・信頼性の高い業者を納入業者として指定した。
- ・市内3箇所に設置した測定機器により、給食食材の放射能測定検査を行った。
- ・安全安心でおいしい食材選定のため、食材給食主任、保護者、調理場職員を構成員とする物資選定会議を毎月開催した。
- ・生産者が分かり安全性が高いと期待される地場産食材の活用に努めた。
- ・納品時の検収確認の他、食材納品業者の衛生検査証明書の提出、また抽出による食材の自主検査等により安全安心な食材の調達に留意した。
- ・施設、設備、器具の点検、清掃、消毒により衛生状態の保持に努めた。
- ・栄養職員による日常的な衛生指導など衛生管理の徹底に努めた。
- ・中央共同調理場のドライ運用を図り、調理過程における衛生管理の 充実に努めた。

##### 課題

- ・中央共同調理場は施設、設備が老朽化のため、建て替える時期がきていること。
- ・中央共同調理場のドライ運用を更に進めること。
- ・国、県の動向や市民の意識に留意しつつ、学校給食食材の放射能検査を継続させていくこと。
- ・調理業務等の受託業者と連携し、引き続き調理従事員の衛生管理の徹底を図っていくこと。

**目標**

(4) 施設・設備の老朽化への対応と中央共同調理場の改築に係る事務の推進

**成果**

- ・ 桐生市学校給食中央共同調理場改築基本計画作成のための候補地選定や防災の観点、学校からのニーズ等の視点から基本計画案の見直しを行った。

**課題**

- ・ 基本計画（基本構想）を早急に決定すること。

**【第三者評価委員による意見】**

来年度からの「学校における食物アレルギー対応マニュアル」の適切な運用が期待されます。食育では献立のみならず、食べ方に着目した教育の充実も必要かと思えます。

### 3 社会教育の推進

<b>目標</b> (1) 教育関係機関及び各施設との連携を図り、より効果的な学習の情報提供
<b>成果</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校・公民館・社会教育施設と連携を図りながら、社会教育の充実に努めた。</li><li>・社会教育委員会では、年4回定例会議を開催し、家庭の教育力の向上及び学校支援のあり方について協議を行った。その結果、26・27年度の2年計画で保護者や教職員にアンケートを行い、家庭・学校・地域が連携して教育を行なえるような体制づくりを進めていくこととなった。</li></ul>
<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・市民の多様なニーズに対応するとともに、学校教育や各公民館の地域づくりとも連携し、社会の変化に対応した今日的課題の情報提供や資質向上を図る研修について取り組むこと。</li></ul>

<b>目標</b> (2) 社会教育団体等の育成や指導者の養成により、効果的な学習の場と情報の提供
<b>成果</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・桐生市PTA連絡協議会、公立幼稚園PTA連絡協議会においては、子どもたちの健全育成やPTA活動の充実発展を図るため研修会を5回実施し、486人が積極的に参加し、効果的な学習ができた。</li><li>・桐生市婦人団体連絡協議会では、明るい地域社会づくりをするための実践活動や奉仕活動を推進しており、研修会や講演会を開催する中で、会員の資質向上及び指導者の育成や地域に根差した活動を積極的に展開した。</li></ul>
<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・桐生の子どもたちを健全に育成し、地域や家庭の教育力を高めるために指導者の養成や、効果的な学習の場と情報の提供を続けていくこと。</li></ul>

<b>目標</b> (3) 人権教育を推進し、人権尊重の重要性を啓発
<b>成果</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・人権週間を中心に各学校とも人権に関する学習を行い、人権教育を推進している。その一環として、標語やポスター、作文に取り組み、人権意識を高めたり人権尊重の重要性を認識したりする機会となった。入選作品は市内大型店に展示し、多くの市民にみていただき、人権に関する関心を高</li></ul>

めることができた。また、人権教育出前講座として17の小学校においては「第6学年等PTA人権教育講座」を行い、1,342人の参加があった。人権の重要課題や自分も他人も同じように大切にすること、実際に行動することの大切さを改めて考えていただくことができ啓発の成果が得られた。また、桐生市人権教育研修会を開催したところ、人権教育推進委員等132人の参加があり、人権教育についての理解を深めることができた。

#### 課題

- ・人権教育指導者養成講座を全10回実施し、桐生市民の人権意識を向上させるリーダーを養成すること。人権教育出前講座は、現在小学校6年生と保護者を対象としているが、更に多くの保護者にも広げていくこと。「生き生き市役所出前講座」の注文数が増えるよう、内容等の工夫をすること。桐生市人権教育推進運動は、人権週間の取り組みとして定着し、たくさんの児童・生徒が啓発作品に取り組んでいる。学校代表とならなかった作品についても、校内に掲示する等の呼びかけを行い、人権啓発に努めること。

#### 目標

(4) 家庭教育「心のきらめき」事業の充実

#### 成果

- ・社会環境の急激な変化により、家庭における教育のあり方は大きく変わり、親自身の積極的な学習と変容が求められているなか、子どもたちの健全育成と家庭教育の向上をめざして、学習内容を①基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん・食育・健康）、②子育て（規範意識の向上・読書）、③社会環境（携帯電話・人間関係・親の役割）の中から選択し、専門家の話（講演・講義）を通して学習し、家族相互の温かく健全な人間関係づくりや、自信を持った子育て等、家庭教育力の向上に成果を挙げた。また、平成26年度は、多くの父兄等に学習の機会を得ていただけるよう各学校等の主催のほか、教育委員会主催の講演会も1回実施し、延べ35回、参加者1,868人の参加となった。

#### 課題

- ・家庭教育はすべての教育の出発点であり、家族のふれあいを通じて、子どもが基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを身につけていくうえで、重要な役割を担っている。今後、さらに家庭における教育力の向上を図るべく、学校・家庭・地域・行政が連携し、学習内容の一層の充実を図ること。

#### 目標

(5) 桐生市市民文化会館の管理・運営の充実

#### 成果

- ・市民の芸術文化活動の拠点である桐生市市民文化会館を効率的かつ有効に機能できるよう、指定管

理者制度を導入し、（公財）桐生市スポーツ文化事業団の4期目（5年間）の指定期間中である。

- ・平成26年度の施設利用の状況は、施設全体で287,730人の利用があり、前年度と比較して10,838人の増であった。稼働率では代表的な施設であるシルクホール、小ホール、展示室がそれぞれ58.0%（前年度比較0.6ポイント増）、84.6%（同2.2ポイント増）、65.0%（同1.8ポイント増）という状況であり、いずれも例年並みの高い稼働率を保っている。
- ・スポーツ文化事業団の実施事業として、自主事業26、共催事業15の合計41事業を実施、前年度と比較して1事業が増加し入場者は25年度の23,733人に比べ2,936人・12.4%増の26,669人という状況であった。自主・共催事業は、施設の稼働率同様近隣施設に比べ実施件数も多く充実した状況にある。

#### 課題

- ・平成26年度から4期目の指定管理者制度による指定期間となっているが、指定管理者は、第3期と同様、桐生市市民文化会館開館時からの委託先である（公財）桐生市スポーツ文化事業団である。指定管理者制度の本来のメリットを生かすため、引き続き指定管理者との連携に努め、効果的かつ効率的な運営を行うこと。
- ・市の厳しい財政状況を鑑み、スポーツ文化事業団については、より魅力ある事業の実施や各種の補助金制度の有効活用などにより効率的な事業運営を求めていくこと。

#### 目標

(6) 公益財団法人大川美術館の管理運営や芸術鑑賞事業等の市民の文化水準向上のための事業を行う団体への支援

#### 成果

- ・大川美術館に対しては、前年度に引き続き管理運営費の補助を行うと共に、大川美術館優待券事業として、児童・生徒、教職員に対し優待券を配布し、上質な芸術鑑賞の機会の提供を行った。利用者は総数で1,424人、前年度と比較し7人（0.5%）の増であった。
- ・桐生市の音楽文化の振興の一助とするため、東毛定期演奏会を行う公益財団法人群馬交響楽団に対して、定期演奏会開催のための運営費を補助した。

#### 課題

- ・大川美術館についてはリピーターを増やす企画などにより経営の自立を前提とした効率的な運営を求めていくこと。
- ・大川美術館優待券事業については、中学生に比べ小学生（3年～6年）の利用が少ないことから、PRを含め、より有効に活用を図ること。
- ・東毛定期演奏会については、広く市民に鑑賞していただくため、積極的に演奏会のPRを図ること。

## 目標

(7) 桐生市文化祭など各種文化振興事業の開催

## 成果

- ・市民の芸術文化活動の発表と鑑賞の機会を提供すべく5月9日から6月8日までの期間、第66回桐生市文化祭を開催、28事業を実施した。また、協賛事業として6事業が行われ、全体で2,825人の参加者と15,999人の観覧者があった。
- ・音楽学習環境整備事業として第10回桐生市マーチングフェスティバル事業を実施。5回の楽器及びマーチングの講習を行い、のべ614人の小中学生の参加があった。発表会では20団体559人が参加し、さらに、第10回記念事業として茨城県立大洗高等学校吹奏楽部の招待演奏を行って、過去最高となる1,950人の来場者があった。

## 課題

- ・桐生市文化祭は、県内でも古い伝統ある事業として定着しているが、参加団体会員の高齢化が進んでいることから後継者の育成や若い世代の参加を含めた文化祭としていくこと。
- ・音楽学習環境整備事業としては、現在のマーチングフェスティバルが10回目となっていることから、自主的な活動への移行を促すと共に、音楽学習環境整備事業として、より幅広いジャンルからの事業実施を検討すること。

## 目標

(8) 市民ギャラリーの利用促進

## 成果

- ・桐生市内で創作活動を行っている市民又は市民で組織される団体の作品展示場として、無料で使用できる本格的なギャラリーを平成24年6月11日に桐生市勤労福祉会館1階に開設したが、平成24年度は5件の利用・1,283名の来場、平成25年度は15件の利用・2,720名の来場、平成26年度は16件の利用・3,553名の来場と、着実に実績を伸ばした。
- ・施設使用報告書では、利用者から、会場の空間・設備等、好評価の意見が集った。

## 課題

- ・市民の中で桐生市勤労福祉会館の知名度が低いため、初めての利用者は会場の周知に苦慮していることから、今後もPRに力を注いでいくこと。さらに、ギャラリー専用の駐車場がないため、近隣公共施設の駐車場利用を周知・徹底させること。また、季節により利用状況に差があるため、年間を通じて一定した利用を見込めるよう、新規利用者の開拓に努めること。

## 【第三者評価委員による意見】

市民ギャラリーについては、他の施設とも連携を取り利用促進を図って欲しいと思います。

## 桐生市立公民館

### 目標

(1) 社会ニーズへの対応やあらゆる世代を対象とした身近な課題を視野に入れた各種学級、講座、講演会を開催

### 成果

・ 幼児・少年・成人・高齢者・女性を対象として485講座を開催し、延べ22,935人の参加があった。

### 課題

・ 引き続き市民の要望に対応する各種講座を開催し、充実した生活を送れるように企画すること。

### 目標

(2) 「桐生を好きな子供」を育てるための体験事業や世代間交流事業を開催

### 成果

・ 地域の大人たちとの交流の場としてイベント等を49回実施し、延べ15,281人の参加があった。

### 課題

・ 世代間交流事業は継続することで地域づくりを担うものであり、引き続き実施すること。

### 目標

(3) 子供を対象とした事業の充実を図るとともに、地域・家庭・学校との連携の充実

### 成果

・ 子供を対象とした事業は、主に夏・冬休みなどの時期に実施した。講座数は99講座（131回）、延べ5,178人が参加した。

### 課題

・ 「桐生を好きな子供」事業の一環として各関係者と協議し、連携継続を図ること。

### 目標

(4) 「人づくり、地域づくり」の拠点としての公民館を目指し、施設整備や館内美化を進め、サロンの雰囲気のある場を提供

## 成果

- ・目標達成のため、文化展やフェスティバル、夏祭り等を実施し、世代間交流を含めた地域との連携を図った。
- ・施設整備のうち、主な修繕は、中央公民館市民ホール舞台設備、川内公民館事務所前床タイル等、工事は西公民館の冷暖房改修や相生公民館の和室改修等を行った。
- ・修繕箇所は41件、5,899,405円、工事は8件、12,634,164円。

## 課題

- ・施設は経年劣化のため修繕箇所が多いが、目標のため努力すること。

### 【第三者評価委員による意見】

公民館で行う各種事業に関しては、地域性を考慮しつつ連携を図り、効率化を進めて欲しいです。

## 桐生市立図書館・新里図書館

### 目標

#### (1) 図書館資料の整備・充実

- a 図書や記録等の印刷資料に加え、多様な情報や資料の収集・整理・保存の推進
- b 郷土関係資料の収集と保存、デジタル化の推進

### 成果

- ・市民の要望や社会の動向を踏まえた資料収集に努めた。
- ・視聴覚資料の充実に努めた。
- ・平成26年4月から上毛新聞Webデータベースサービスを開始した。
- ・「相生村郷土誌 附 産業組合基本調査書」を刊行した。
- ・古文書、写真資料などをデジタル保存した。

### 課題

- ・デジタル化した郷土資料の公開方法を確立すること。
- ・未返却資料や不明本を少なくするよう取り組むこと。

### 目標

#### (2) 利用者の利便性の拡大・充実

- a 「子ども読書活動推進計画」を核としたブックスタート事業などの子供の読書環境の充実

- b 各種事業の開催による読書啓発の推進
- c 所蔵資料の活用推進
- d レファレンスサービスの向上
- e プラネタリウム・天体観察会の利用促進
- f 地区公民館図書室・学校図書館との連携
- g 県内図書館等との情報の共有化と相互貸借の活用促進

#### 成果

- ・「桐生市子ども読書活動推進計画」を基に、ブックスタート事業など子どもの読書活動を継続して推進した。また、講習会を開催しボランティア育成に努めた。
- ・「桐生市子ども読書活動推進計画・改訂版」を作成した。
- ・「小学生のためのデータベース調べ方教室」や「データベースを使って法律や判例のクイズにチャレンジ」などの講座を開催し、情報の利用方法を推進した。
- ・プラネタリウムや天体観察会を開催した。
- ・公民館利用者の要望にそった公民館図書室の図書の充実に努めた。
- ・小学校等への団体貸出を継続し、図書資料の要望に応えた。

#### 課題

- ・「桐生市子ども読書活動推進計画・改訂版」に基づく関係団体との連携を強化すること。
- ・レファレンスサービス対応のための職員の技能を向上すること。
- ・プラネタリウム・天体観察会の開催に係る職員の技術を向上すること。

#### 目標

##### (3) 図書館施設の整備・充実

- a 利用しやすい読書環境の提供
- b 新築・増改築を含めた施設整備の調査・研究

#### 成果

- ・児童・絵本コーナーをぬいぐるみやイラストで装飾し、明るく利用しやすいよう工夫した。
- ・絵本コーナーに授乳スペースを設け、赤ちゃんを連れてきても気がねなく利用できるよう工夫した。
- ・防犯カメラを設置し、安心して利用できる環境を整備した。

#### 課題

- ・飽和状態の収納スペースを確保すること。
- ・新築、増改築の計画方針を確立すること。

### 【第三者評価委員による意見】

デジタル化した郷土資料は桐生からの貴重な情報発信材料になると思いますのでできる限り早くその公開方法を確立して欲しいです。

## 桐生市立新里郷土文化保存伝習館

### 目標

(1) 生涯学習推進の拠点として各種講座等の開催

### 成果

- ・14講座58回を開催し、延503人の参加者があった。講座終了後にさらなる知識や技術の向上を求め、地域のサークルへの参加が見られるなど、生涯学習の推進が図れた。

### 課題

- ・伝統技術等の講座において、一度に指導できる人数に限られ、少人数の定員となってしまうこと。

### 目標

(2) 作品の常設展示及び作品展の開催

### 成果

- ・伝習館の講座等受講者や活動サークルによる作品展を2回16日間開催した。桐生市内外から来場があり、614人の来場者に作品を鑑賞していただいた。出品者の作成意欲が高まった。

### 課題

- ・城跡公園アジサイやロウバイが咲く時期に合わせて開催し、花木情報と平行した広報の実施、作品の質・量の向上を目指したサークルの支援を行い、参加者及び来場者の増加を図ること。

### 目標

(3) 陶芸館での活動推進

### 成果

- ・3サークルが陶芸館を定期利用し、活動日数54日延268人が陶芸作品の製作を行った。各サークルは伝習館作品展にも参加しており、意欲的に活動している。

**課題**

- ・サークルへの新規参加者がなく、固定メンバーでの活動になっていること。施設及びサークルのPR等、さらなる利用促進を図ること。

**【第三者評価委員による意見】**

建物自体の制限があるので、開催する各種講座については伝習館の規模に見合った適切な企画を模索して欲しいと思います。

## 4 青少年の健全育成

### 目標

- (1) 青少年教育活動（郷土愛を育む青少年教育の充実）
- a 青少年教室・講座・年少指導者研修等の開催
  - b ネット見守り活動の強化・充実
  - c 第67回「成人の日」事業の開催
  - d 青少年教育（現代的課題）活動に対応した各種事業を展開する情報の発信及び相談

### 成果

- ・青少年団体活動の充実等を目的として、年少指導者養成研修会、子ども会インリーダー養成研修会等を通じて育成指導者との醸成が図れた。また、市内小中学校及び地区別（5地区）における情報モラル講習会を通じ、ネット環境や青少年のネット利用の危険性等の情報を伝えることができた。

### 課題

- ・青少年の生活実態は、社会経済情勢の変化とともに多様化し、青少年の心をとらえて社会の期待に応える教育施設（青年の家）として更に取り組むこと。また、日々変化するネット環境へ対処すること。

### 目標

- (2) 青少年対策事業（青少年の保護育成）
- a 市民総ぐるみの青少年健全育成運動の推進 …… 三季別青少年健全育成運動や家庭健全化運動を通じた市民総ぐるみによる青少年の健全育成・安全確保・環境浄化・非行防止の推進
  - b 地区青少年愛育運動の推進 …… 「地域の子供は地域で守り育てよう」をスローガンとした健全育成・安全確保・非行防止活動と家庭や地域における教育力回復の推進

### 成果

- ・定例補導（指導）、電話・メール相談、各季の健全育成運動、家庭健全化運動の推進、子どもの安全に係る諸対策、健全育成の啓発・調査・補導相談、ネット見守り活動、情報モラル講習会等、子どもの安全確保に向けた全市的な機運の醸成等が図れた。

### 課題

- ・地域防犯活動の協力要請等、関係課との連携を強め、子どもの安全確保を呼びかけ、ネット見守り活動、情報モラル講習会等の更なる充実に心がけること。

### 目標

- (3) 野外活動センター事業

- a 地域や施設の特徴を活かした主催事業の推進
- b 施設の整備や青少年を取り巻く社会環境の変化に対応した活動プログラムの充実

#### 成果

- ・梅田の自然環境や伝統的工芸を利用した門松作り教室、紙漉き教室、キッズキャンプ等、野外活動センターの立地条件を生かした事業の取組みが図れた。

#### 課題

- ・施設周辺の自然環境を含め、各主催事業における周知の徹底や募集方法等の充実に努めること。

#### 【第三者評価委員による意見】

保護者以外の人にもどのように青少年の健全育成のための活動に加わって戴くかを考えていくことが必要と思います。

### 桐生市立青年の家

#### 目標

- (1) 事業の企画・推進
  - a 青少年の活動の拠点としての各種青少年対象事業の推進

#### 成果

- ・時代に対応した体験学習事業の充実促進を目指し、地域の人達等との活動事業を通じ交流が図れた。

#### 課題

- ・青少年にふさわしい体験事業の提供に努め、活動意欲の向上及び動機付けを図ること。

#### 目標

- (2) 青少年団体の育成・指導
  - a 青少年の連帯意識高揚のためのグループ育成指導の推進

#### 成果

- ・親善ドッジボール大会、臨海子ども会、子ども会交歓会、親善球技大会、上毛かるた大会等を通じ、その活動支援に努め、青少年の事業活動に積極的に係り、健全育成にふさわしい支援協力が図

れた。

#### 課題

- ・育成指導の推進として、より魅力的な学習の観点に立った支援を行うこと。

#### 【第三者評価委員による意見】

グローバル化を睨み、国際交流的な行事も考えていく必要があるのではないかと思います。

### 桐生市青少年センター

#### 目標

##### (1) 好ましい環境づくりの推進

- a 青少年に有害な環境の排除など、青少年の健全育成上好ましい環境づくりの推進
- b インターネットによるいじめやトラブルから青少年を守るため、ネット見守り活動の強化・充実

#### 成果

- ・青少年を取り巻く環境の変化に対応した環境実態調査、たまり場調査等を通じ、各地区における子どもを守る活動状況の情報交換や青少年健全育成の推進へ協力要請を行う活動に努めた。また、インターネットによるいじめトラブルから青少年を守るため、ネット見守り活動や各小中学校及び各地域（5地区）における情報モラル講習会において最新情報を提供した。

#### 課題

- ・地域の子ども達を健全育成するため、さらに地区の諸団体、機関が目的を同じくして、それぞれの活動を展開すること。また、インターネット関係では、スマートフォン等の利用増加に伴い適切に対応すること。

#### 目標

##### (2) 非行防止・安全確保活動の徹底

- a 学校、家庭、地域住民の連携や関係機関・団体との連携による青少年の非行防止・安全確保活動の徹底

#### 成果

- ・「少年の日・家庭の日」の推進など、健全な家庭には健全な地域づくりが必要であり、地域が家庭

に有機的に機能することが大切であり、この運動は不審者などの減少に少なからず良い成果を与えた。

#### 課題

- ・子どもの安全確保対策を推進し、安全確保に向け、全市的機運の醸成と推進を一層努めること。

#### 目標

##### (3) 相談機能の充実

- a 青少年や保護者に対する相談活動の推進と相談機能の充実

#### 成果

- ・ヤングテレホン・ヤングメール相談及び面接相談において、問題となっている行為の内容を掘り下げ、良き方向へ導く助言、指導を行った。また、ヤングテレホン相談員の研修会を開催し、相談員の資質向上、問題点の共有を図った。

#### 課題

- ・相談活動の利用促進に資するため、「広報きりゅう」による周知のほか、学期毎に各市内小・中学校及び高等学校、公民館等を通じチラシを配布し、今後も周知啓発に努めること。

#### 【第三者評価委員による意見】

青少年の非行防止や安全確保のために地域住民らがどのように関わっていくのかといったガイドラインの策定が望まれます。

### 桐生市青少年野外活動センター

#### 目標

- (1) 梅田の自然環境や伝統文化を活かした各種体験教室（化石採取・水生昆虫観察・天体観測・登山・紙漉き・木工工作等）の機会を計画的に提供

#### 成果

- ・地元梅田の自然環境や伝統文化を活かした各種体験教室を実施し、体験教室として親子ふれあい活動事業に努めた。

#### 課題

- ・新しい体験教室のプログラムを考案すること。

#### 目標

(2) 施設及び環境整備の充実と保育園・幼稚園、学校（学校行事・総合的な学習の時間）、青少年団体等のニーズに対応した活動プログラムの開発と推進

#### 成果

- ・施設の整備及び活動プログラムに必要な環境整備を行い、利用者のニーズに応えることができた。

#### 課題

- ・利用者に対し、さらに充実した施設利用を提供するため、館内外を修繕すること。

#### 【第三者評価委員による意見】

梅田の自然環境は季節感が豊かだと思います。この季節感を活かした各種体験教室を企画して戴きたいと思います。

## 5 スポーツの振興

### 目標

- (1) スポーツ施設整備の推進
  - a スポーツ施設・設備の整備改修
  - b 地域におけるスポーツ活動施設の提供
  - c 県立スポーツ施設の誘致

### 成果

- ・スポーツ施設・整備について、桐生市のスポーツ施設の今後の整備計画を検討している。また、学校開放事業により、地域スポーツ活動施設を提供した。
- ・桐生球場のグラウンド拡張工事及びナイター照明設置を行い、グラウンドはプロ野球が出来る施設に、ナイター照明は公式の硬式野球の大会が出来る施設に改修した。
- ・県立スポーツ施設の誘致については、東毛地区アイススケート場建設の請願書を県議会に提出し、趣旨採択されている。

### 課題

- ・スポーツ施設・整備については、施設の多くが老朽化しているため、今後スポーツ施設全体の改修計画を立てるための基本計画を立てて整備すること。
- ・アイススケート場については、引き続き県立施設の誘致を含め整備を検討すること。
- ・市民体育館及び陸上競技場は老朽化が著しく、早期の改修を検討すること。

### 目標

- (2) 生涯スポーツの推進
  - a 各種スポーツ教室の充実
  - b スポーツイベントや施設案内等の情報提供の充実

### 成果

- ・「元気」「安心」「未来」の3本の柱をもとに“まちづくり”を進めるなか、生涯にわたり市民がスポーツに親しめるよう“いつでも どこでも だれでもスポーツを”の実現に向け、スポーツ環境の充実に努めた。

#### ◇主な事業

- ・「いきいき市役所出前講座」を活用しながらニュースポーツを紹介した。(3回実施)
- ・桐生市スポーツ推進委員会の協力のもと、市民が気軽に参加できるイベント「市民ふれあいスポーツフェア(ヘルスバレーボール)」を開催した。(参加者10組52人)
- ・桐生市陸上競技協会の協力のもと、小学生を対象としたナイター陸上競技教室を開講した。(6日間、参加者137人)
- ・(公財)桐生市スポーツ文化事業団と連携し、市民の健康維持・増進を目的としたスポーツ教室を開講した。(16教室、延べ85日、参加者1,598人)

- ・気軽にスポーツに親しむ機会を提供する目的から、学校施設を活用し学校開放事業を行った。  
(15地区28校で実施、延べ9,784日、延べ267,054人利用)

### 課題

- ・市民の健康の維持・増進はもとより、社会参加の場としても社会体育の果たす役割は大きく、活力あるまちづくりのためには必要不可欠であると認識している。
- ・市民ニーズも多種・多様であり、各種スポーツ教室などの事業実施に際し、市民の声に耳を傾け、  
(公財) 桐生市スポーツ文化事業団と連携し、また、体育協会に加盟する競技団体、地区団体の協力を得るなか、継続的に実施すること。
- ・各種競技団体から情報を得るなか、市民はもとより多くの方に情報の提供に努めること。

### 目標

#### (3) 競技スポーツの推進

##### a 選手強化と競技力向上の推進

### 成果

- ・スポーツを取り巻く環境も大きく変化している。2,020年には「オリンピック・パラリンピック東京大会」が行われることが決定し、市民の関心も高まっている。将来性豊かなアスリートの発掘・育成を図るため、アスリートが競う国内競技大会への出場に対し支援した。

#### ◇群馬県民体育大会への桐生選手団派遣

- ・夏季大会（水泳競技）51人（総合5位）
- ・秋季大会（陸上競技など18競技23種目）300人（総合4位）
- ・冬季大会（スケート競技）33人（総合2位）
- ・冬季大会（スキー競技）46人（総合5位）

#### ◇全国大会・地方ブロック大会（東日本・関東大会等）参加報償金交付実績

- ・全国大会（小・中学生）11大会、43人出場
- ・関東大会（小・中学生）11大会、113人出場
- ・北関東大会（一般）3大会、33人出場

### 課題

- ・オリンピックで活躍するようなトップアスリートを輩出することは、「競技スポーツ」の向上及び市民のスポーツ機会の創出による「地域スポーツ」の充実に繋がる。
- ・トップアスリートと地域が交流する場の創出等、ジュニア期からトップレベルに至る体系的な強化体制を構築すること。
- ・競技スポーツと地域スポーツの「好循環」を生み出すこと。
- ・スポーツを通じ「元気な桐生」を創出するため、アスリートの発掘・育成の場となる環境を整備すること。

<p><b>目標</b></p> <p>(4) 団体・指導者の育成</p> <p>a 競技団体やクラブの育成</p> <p>b 指導者の確保と資質向上</p>
<p><b>成果</b></p> <p>◇桐生市体育協会加盟競技団体の協力を得るなか、第67回桐生市民体育大会を実施した。</p> <p>期間：平成26年7月1日から27年3月31日 33競技、11,361人参加</p> <p>◇（公財）桐生市スポーツ文化事業団と連携し、指導者のスキルアップを目的とした、スポーツ医科学講演会を開催した。</p> <p>講師：小林 勉 高崎健康福祉大学教授、演題：「肩と肘の障害予防」参加者86人</p>
<p><b>課題</b></p> <p>・人口減少、高齢化社会を向かえ、運動・スポーツの役割は大きいものがある。人格の形成、体力の向上、健康長寿の礎とともに、地域活性化等による経済効果の観点から「元気で活力あるまちづくり」には必要不可欠な存在である。</p> <p>（公財）桐生市スポーツ文化事業団と連携して、年齢や技術・技能レベルなどによって異なる市民の多様なスポーツニーズに応えることができるよう、競技団体等の組織強化並びに地域スポーツ指導者と競技力向上指導者の確保・育成を推進すること。</p>

<p><b>目標</b></p> <p>(5) スポーツイベントの開催・支援</p> <p>a 桐生市堀マラソン大会の開催</p> <p>b ニューイヤー駅伝の支援</p>
<p><b>成果</b></p> <p>◇桐生市堀マラソン大会</p> <p>第61回大会は前回より834人減少したが、9,587人の申し込みがあった。（過去最高の申し込みは、第60回大会の10,421人である。）市民総参加のマラソン大会を提唱しているものの、本市最大のスポーツイベントであり、マラソンブームや高橋盾さんデザインTシャツによる効果も重なり、市外・県外からの人を呼ぶことのできるイベントへと成長している（市内と市外の比率は、60%対40%）。毎年参加者数は増加傾向にあって、市民ニーズのみならず経済効果が望めるイベントへと成長した。</p> <p>◇ニューイヤー駅伝</p> <p>桐生警察署、桐生市陸上競技協会と連携し、競技者の安全対策や交通対策に重点を置いた運営を最優先に取り組むなか、18の関係団体により実行委員会を組織し、「元気な桐生」を全国に発信した。</p>
<p><b>課題</b></p>

◇桐生市堀マラソン大会

- ・参加者の増加（地域の活性化）と比例し、大会運営（交通対策等）の更なる強化を図ること。
- ・参加者の安全と安心を確保するため現在の1万人が限度であること。
- ・全国的なマラソンブームにより多くの観光客（スポーツツーリズム）を誘致することが可能となっている反面、市民の理解のもと方向性を関係機関（陸協、事業団）と十分協議すること。

◇ニューイヤーク伝

- ・警備・交通対策のための自主整理員（600人）の確保に苦慮していること。
- ・今後とも、市民及び関係団体へ理解を求め、競技者の安全対策や交通対策に努めること。
- ・引き続き「元気な桐生」を全国に発信する絶好の機会と捉え、関係団体の協力のもと、歓迎する会の企画・運営に努めること。

**【第三者評価委員による意見】**

堀マラソンについては設備の有効利用の観点から、陸上競技場をスタートおよびゴールとするコースの見直しを検討することも一案ではないかと思えます。

## 6 文化財の保護活用

<b>目標</b> (1) 指定・登録文化財の保全と環境整備
<b>成果</b> ・国庫補助事業として2ヵ年継続して実施した重要文化財「彦部家住宅」保存修理工事が終了し、整備された歴史的景観および文化財を公開することができた。天然記念物や史跡については除草・枝打ち等の環境整備事業を実施することにより文化財の保全・保護が図られた。
<b>課題</b> ・文化財の数や種類が多く、それに伴う保全や整備も多種多様にわたるため、緊急性や効果などを考慮し、優先順位を付けるなど工夫すること。

<b>目標</b> (2) 文化財の積極的活用の実践
<b>成果</b> ・桐生明治館や有鄰館、絹撚記念館と言った市有施設である文化財の公開を継続するとともに、企画事業等ソフト事業により新たな魅力が創出された。また、みどり市との交流事業「文化財めぐり」や公開事業、出前講座等を開催することで文化財への再認識や意識の高揚が図れた。
<b>課題</b> ・文化財の見学会や施設の企画事業の見直しを図るなど市民のニーズに合わせた内容の充実を図ること。

<b>目標</b> (3) 未指定の歴史的遺産の調査・記録保存
<b>成果</b> ・市内の建造物（近代化遺産、古民家）や有形および無形の民俗文化財、文献資料の調査をし、記録保存を行った。また、継続的に民俗資料の整理をするなかでリストの充実を図った。
<b>課題</b> ・歴史的遺産の調査については、調査計画に基づいて実施しているものもあるが、建物の解体などから緊急性を要するものが年々増加している。今後、整理作業も含め一定のレベルを維持するため計画的・効率的な事業の実施が不可欠であること。

<b>目標</b> (4) 文化財に対する啓発の推進及び周知
<b>成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「近代化遺産の日」関連事業として近代化遺産の一般公開、崇禅寺で実施した「文化財防火訓練」など文化財を身近に見学する事業を実施することで文化財への啓発・周知が図れた。また、桐生市ホームページの充実により、さらなる文化財の周知を図った。</li> </ul>
<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業への参加者の増加を図るために、事業内容の充実や情報提供の機会を増やすとともに庁内関係各所と連携を図りながら、より広範な分野から文化財の啓発と周知に努めること。</li> </ul>

<b>目標</b> (5) 子供が文化財に親しみ学ぶ機会の推進
<b>成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治館など市有施設において子供対象の事業を開催するとともに小学校等の依頼により学校での出前講座の開催、昔の農具など民俗資料を授業用に提供、新里の民具展示場においては収蔵資料の見学会を実施し、子供が実物の資料を通して文化財に触れる機会を創出した。</li> </ul>
<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全域の子供が文化財に触れる機会が少なく、学校や地域と連携を取りながら文化財や資料などを活用し、学ぶ機会を増やすこと。</li> </ul>

<b>目標</b> (6) 近代化遺産の啓発と保存活用に対する提言
<b>成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「近代化遺産の日」関連事業として近代化遺産の一般公開や上毛電気鉄道との共催事業を毎年継続して実施するとともに「文化財めぐり」では絹遺産編として織物に関連した近代化遺産を中心に見学を行った。また、ウォークラリーやホームページにより市内に散在する近代化遺産を紹介することで市民意識の高揚を図り、その重要性や魅力を伝えた。</li> </ul>
<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代化遺産の活用が市民に理解されてきたが、反面、年数を重ねるごとに近代化遺産の保存が厳しいこと。</li> </ul>

- ・歴史的な環境を保存継承して行くために、市民をはじめ所有者や管理者の近代化遺産への理解を得ること。

#### 目標

(7) 文化財の保存活用を進める市民団体への支援推進

#### 成果

- ・各種助成金の手続窓口として市民団体への助言を行い、建造物の修復などに対する民間の助成金の紹介や申請手続きの協力を行った。

#### 課題

- ・文化財の保存活用のための支援については、財政的な支援のほか技術等人的な支援を含め工夫すること。

#### 目標

(8) 遺跡発掘調査による記録保存及び出土品等の保存活用

#### 成果

- ・市内17か所の遺跡の発掘調査および試掘調査を実施し、旧石器時代から近世までの住居跡や土坑などの遺構や土器・石器などの遺物を確認し、記録保存を行った。

#### 課題

- ・累積する遺物等の出土品が増加していることに対して、整理作業や広報、展示などの実施体制や収蔵場所を確保すること。

#### 目標

(9) 埋蔵文化財包蔵地の周知による迅速な行政指導

#### 成果

- ・遺跡情報管理システムに土地の履歴等の情報を追加しながら継続活用することにより、市民への埋蔵文化財包蔵地、遺跡地図などの情報提供が迅速に行えるようになった。

#### 課題

- ・市民対象の遺跡情報管理システムを利用したインターネット検索については、個人情報も含まれているため、今後、内容を整理すること。

### 【第三者評価委員による意見】

予算の制約もあるかと思いますが、発掘結果に基づいて推定される過去の桐生の姿をバーチャルで再現する等の工夫も検討して戴きたいです。

## 桐生明治館

### 目標

(1) 各種企画展や記念事業の開催

### 成果

・重要文化財としての建物や資料の公開を行うほか、市内の児童生徒を対象にした「小学生が書いた絵手紙展」「教室をとびだしたこども体験教室」「相生幼稚園児作品展」、前橋市ほか県内の関連市町村と連動した「楫取素彦と桐生」展の4回の企画展を開催し、1,186人の観覧者があった。

### 課題

・企画展の開催により幅広い年代の来館者があり、教育の振興や文化財の公開にも貢献する面があることから、継続して魅力的な企画展を開催すること。

### 目標

(2) 個展・作品展等の会場の提供を行うとともに、記念日等の無料開放を実施し、市民に親しまれる施設としての利用拡大

### 成果

・アートフラワー展や絵画展が開催され、総開催日数50日、909人の来館者があった。また、「明治館開館記念日」「文化財保護強調週間」など5回の無料観覧期間を設け、より多くの市民が文化財に親しむ機会を設け、期間中の入館者は1,122人であった。

### 課題

・施設の使用件数に増加が見られず、市民が活用できる重要文化財としての魅力が十分に周知されていないこと。指定文化財としての利用上の制約はあるが、歴史的な景観を活かした事業の開催など、より多くの利用を促すためにPRすること。

### 目標

(3) 喫茶室の一層の充実に努め、市民の憩いの場を提供

#### 成果

- ・観覧者数の増加とともに喫茶室収入も前年度に比して増加した。平成26年度については、賄い材料費197,351円に対し、喫茶室収入は395,100円であった。また、年間を通して電子ピアノや琴などBGM演奏も実施し、固定した利用者を創出するとともに、明治時代の建造物がもつ室内の雰囲気にも好評をいただいている。

#### 課題

- ・入館者の利用率が高まっているとは言えず、今後も利用していただくための魅力づくりとともに入館者や市民に対するPRなど安定した利用を図ること。

#### 【第三者評価委員による意見】

喫茶室で提供する目玉メニューを開発し、注目を集める等の工夫をしては如何かと思います。目玉メニューにつきましては市民から一般公募するのも良いのではないのでしょうか。

### 桐生市有鄰館

#### 目標

(1) 各種企画事業の開催

#### 成果

- ・桐生市有鄰館運営委員会委託事業として「有鄰館まつり」「第10回有鄰館芸術祭」など、4事業を開催し17,346人の参加者があった。

#### 課題

- ・自主事業については有鄰館運営委員会が中心となって開催し、毎年成果を上げているが、さらに多くの観覧者を得るために、事業内容を新たに展開すること。

#### 目標

(2) 市民文化活動の拠点として、一層の効果的活用の拡大

#### 成果

- ・市民文化活動の情報発信地として位置づけられており、地元の子どもや団体からプロに至るまで、

多種多様な事業が実施された。平成24年7月から年末年始を除き無休を継続しており、利用件数が110件、63,953人の入館者があった。

#### 課題

- ・平成25年度に比較して、利用件数や入館者が若干増加しているが、震災前の状況に戻っていない。有隣館の景観や建物の魅力をPRし、新たな利用者を発掘すること。

#### 【第三者評価委員による意見】

比較的利用が少ない平日の夕方にサロンのように気軽に利用できる環境整備等を行う必要があるのではと思います。

### 桐生市近代化遺産絹襷記念館

#### 目標

- (1) 桐生市ゆかりの様々な郷土資料を展示

#### 成果

- ・郷土資料展示施設として平成25年4月から開館しており、平成26年度においては1,556人の入館者があった。市内唯一の資料展示施設として、市民等に桐生市の貴重な資料を見ていただくことができた。

#### 課題

- ・平成25年度に比して入館者数が減少している。展示スペースや室内の利用方法など指定文化財としての制限はあるが、教育や文化的な視点を踏まえながら、幅広く桐生市を知るための企画運営を実施することができる体制にすること。

#### 目標

- (2) 各種企画展や記念事業の開催

#### 成果

- ・企画展として「クラシックカメラ展ー河原井コレクションからー」、10月からは「時代の動向と教科書の変遷展」を実施し、入館者から好評を得た。

#### 課題

・より充実した企画展や記念事業を定期的に行うことができるように運営や協力体制を見直すこと。

**目標**

(3) 「桐生を好きな子供」を育てるための事業の実施

**成果**

・子ども企画事業として「昔の教科書を見てみよう」を実施し、市内の小学生10名の参加があった。

**課題**

・子どもが桐生について興味を持ち、学ぶことのできる企画展や事業をより多く実施すること。

**【第三者評価委員による意見】**

「桐生を好きな子供」を育てるための事業の実施は新しい試みですが、今後も続けるべき事業だと思います。

**桐生市立新里郷土資料館**

**目標**

(1) 新里町で出土した埋蔵文化財の常設展示

**成果**

・旧石器時代から中世までの土器や石器、民俗資料などの常設展示を行っており、新里地域の資料を広く市民に公開することができた。

**課題**

・常設展示のみであるためリピーターの確保は難しく、入館者の増加に至っていない。ホームページ等でPRを進めるとともに、状況が整えば常設展示の入れ替え、企画展などのソフト事業も開催すること。

**目標**

(2) 郷土の民俗資料の常設展示

## 成果

- ・市指定重要文化財「新川の歌舞伎舞台下座」など、生活・生業等に関する民俗資料とともに、地域から寄贈された民俗資料についても展示し、公開することができた。

## 課題

- ・展示スペースなどの制限もあるが、定期的な展示替えや資料の追加など、収蔵資料を生かすため内容を見直すこと。

### 【第三者評価委員による意見】

昨今の戦国武将ブームに鑑み、新里ゆかりの新田氏や山上氏にスポットを当てた展示等を企画して、入館者増を図っては如何でしょうか。

## 桐生市立黒保根歴史民俗資料館

### 目標

- (1) 黒保根町で出土した埋蔵文化財の常設展示

### 成果

- ・縄文時代の土器や石器など黒保根町内で出土した遺物を常設展示することで、資料を通して黒保根町の歴史を紹介することができた。

### 課題

- ・集客にも繋がる企画展の開催や資料を管理するために専任、専門の職員を配置すること。また、来館者のために施設をバリアフリー化すること。

### 目標

- (2) 郷土の民俗資料の常設展示

### 成果

- ・生産・生業・衣食住の民俗資料の常設展示により、先人の生活の様子を知ることができた。

### 課題

- ・集客にも繋がる企画展の開催や資料を管理するために専任、専門の職員を配置すること。また、来館者のために施設をバリアフリー化すること。

**【第三者評価委員による意見】**

黒保根町内で出土した遺物を展示するのみではなく、映像と組み合わせて先人がどのような生活をしてきたのかを具体的にイメージでできるような方法も考えていく必要があるかと思えます。

### 【 第三者評価総括 】

平成26年度下記の事業で新たな展開が図られたことは評価されるべきものと考えます。

- 1) 桐生市立小学校／中学校／特別支援学校 --- 道徳教育の整備、生徒の体力向上に関する取り組みおよび特別支援教育の個別支援や小中学校での施設、設備の充実。
- 2) 桐生市立商業高等学校 --- 教育面では学び合い学習、スクールカウンセリングや台湾への海外研修事業等および情報発信面では「わくわく体感ツアー」等を通じた生徒指導の充実。
- 3) 桐生市立商業高等学校（定時制課程） --- 命を守る教育において交通安全教室、非行防止教室、防災教室および薬物乱用防止教室等、指導項目毎の教室の設置。
- 4) 桐生市立教育研究所 --- 研究成果をホームページで閲覧できるようにすることで研究成果の還元および教職員への情報提供に努めたこと。
- 5) 桐生市近代化遺産絹襷記念館 --- 「桐生を好きな子供」を育てるための事業を新たに試みたこと。

桐生市として財政厳しき折、限られた原資の中で創意工夫の上、独自の魅力ある教育事業が展開されますことを願って止みません。

第三者評価委員 群馬大学大学院理工学府 教授 松原雅昭



平成26年度  
桐生市教育委員会事業点検評価報告書

桐生市教育委員会  
管理部総務課  
桐生市織姫町1-1  
0277-46-1111 内線643